



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第49巻第
9号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第49巻第9号). 泌尿器科紀要 2003, 49(9): 574-574

ISSUE DATE:

2003-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/115030>

RIGHT:

4. 論文の訂正：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
6. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
 - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,500円、英文は6,500円、超過頁は1頁につき7,000円、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
 - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は30,000円、6頁以上は1頁毎に10,000円を加算した額を申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
7. 別冊：実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

編 集 後 記

体腔鏡下手術の安全性に関して感じていた不安が現実のものとなってしまった。新聞報道による前立腺全摘術の不幸な医療事故である。このような事を危惧して進められてきた日本内視鏡外科学会および日本EE学会の技術認定制度は遅れをとってしまった。不幸にもお亡くなりになられた患者さんのご冥福を心よりお祈りしたい。

新しい診断治療法を開発してより良い医療を提供したいという情熱は医学 医療の発達には欠かすことが出来ない。しかし、これまでの歴史を尊重しながら、常に行き過ぎを自重するバランス感覚はこれからさらに重要になってくるだろう。我々医師には謙虚さが必要である。特に外科医にとっては、ある意味での臆病さは美德ですらあると思う。本年初めの某研究会の席で、「前立腺の体腔鏡下手術はまだ確立していないリスクの高い手術なので、若い泌尿器科医諸君は興味があるかもしれないが一般の病院では控えてほしい。そのリスクを負う役割は高度先進医療として認められている大学病院に任せてほしい。」と意見を述べたことがある。大学中心主義というのでは無い 特殊な医療から一般医療への橋渡しこそ大学病院に求められている使命だと思っているからである。私費診療下で高いリスクを負いながら頑張っている施設もあるが、やはり技術面での担保と十分なインフォームドコンセントは不可欠だろう。

保険制度にも大きな問題がある。体腔鏡下の腎臓手術の処遇において顕著にみてとれるように、医師の技術面での努力が全く評価されていない。評価の無いところへは誰でも参入できるし不適格者を排除する力学も働かない。またいっぽうでは努力する医師の情熱もそがれてしまうのである。

(小川 修)

泌尿器科紀要 第49巻 第9号 2003年9月25日 印刷 2003年9月30日 発行
 発行 小川 修 顧問 吉田 修 発行所 泌尿器科紀要刊行会
 〒606-8392 京都市左京区聖護院山王町18 メタボ岡崎301号 電話 (075) 752-0100
 FAX (075) 752-0190

http://web.kyoto-inet.or.jp/people/acta_uro/index.html
 印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入
